

昭和初期の上海・大連 歴史の鼓動を伝える幻の日本語新聞

東京大学大学院情報学環・学際情報学府所蔵

大連新聞・上海日日新聞

日本帝国主義の侵略地で翻弄された民間新聞

山本 武利 (NPO法人インテリジェンス研究所理事長)

大連の租借地の『大連新聞』と上海の日本租界の『上海日日新聞』はともに在野の新聞としてその地に居住する日本人移住者への情報提供を目的で創刊された。ともに 5 万から 10 万程度の住民しかいない地域であったため、類似紙との競合で経営は容易ではなかったが、日本軍や日本政府、日本財閥からの支配を受けずに、その地の経済、生活情報のほかに独自の政論を掲げて細々と続いていた。ところが満州事変と第 1 次上海事変、支那事変と第 2 次上海事変という連鎖的侵略戦争の勃発が両紙の平和的環境を崩壊させた。両紙ともに世論支配を狙う軍部中心の権力に蹂躪されつつ刊行の継続に必死となった。創刊者であり、満州侵略に批判的であった宮地貫道が上海を離れた『上海日日新聞』が第 2 次上海事変では、職工中国人の逃亡のため印刷発行不能となり、謄写版のニュースを発行した。ついに 1937 年に日本軍に買収され、華字紙『新申報』となった。一方『大連新聞』は戦火に脅かされることはなかったが、関東軍のメディア統制でライバル『満州日日新聞』という満鉄機関新聞に強制的に吸収される憂き目になる。

両紙はどの分野の研究者にも注目されなかった。それは両紙に魅力がなかったからではなく、利用しにくかったからである。今回 DVD で復刻されることによって利用しやすくなる。今後は激動期の両紙それぞれの時代への対応が把握できるだけでなく、日本軍侵略地で苦悶しつつ、独立不羈の活動を行おうとした足跡を検証することが容易になる。

大正期に中国の 2 大都市、大連と上海で産声を上げた日本語新聞―「大連新聞」と「上海日日新聞」の復刻版。満鉄機関紙「満州日日新聞」とは対照的に市民の声を反映した真の民論機関を目指した「大連新聞」、片や中国最大の国際都市「上海」で 1914 年 5 月に創刊され、30 年代には華文版を増ページするなど、その国際性を強調した「上海日日新聞」。

戦時体制へと大きく舵を切りはじめた時代の証言であり、観察の記録でもある第一級の歴史資料ではあるが、ここに復刻をなす東京大学を除けば、国内にはいずれも原紙を所蔵する機関は皆無に近く、斯界研究者にとってもその存在すら極めて認知度の低いものであった。特殊な政治、経済、社会、文化の空間に遺された希少の実証資料としてすべての歴史家にお勧めします。

出版・発売元：丸善雄松堂株式会社

 **MARUZEN-YUSHODO**

裏面参照



大連新聞

昭和7年1月～10年8月

DVD版5枚……………定価¥300,000(本体)

マイクロ版28リール…定価¥560,000(本体)

「満州日日新聞」に対抗しうる「唯一の野党新聞」

高 媛 (駒澤大学 准教授)



「大連(現旅大)の中央広場」(毎日新聞社提供)

『大連新聞』は日本の租借地「関東州」の中心都市・大連で誕生した、民間人経営の日本語新聞である。1920年5月5日に創刊されてから、『満洲日報』との合併が発表される1935年8月6日にかけて、延べ15年3ヶ月、計5470号発行されていた。戦前期大連で刊行された邦字日刊新聞は計3紙。最古参の『遼東新報』(1905～27年)と、最長の発行期間を持つ『満洲日日新聞』(1907～45年、その間、『満洲日報』と改題された時期もあるため、以下『満日』と略す)、そして『大連新聞』である。当初、資金力も発行部数もほかの2紙に劣っていた『大連新聞』は、『遼東新報』の廃刊と満洲事変を契機に大きく勢力を伸ばし、やがて『満日』に対抗し得る「唯一の野党新聞」として躍進していった。とりわけ、1928年『大連新聞』主催の満洲青年議会は、のちに協和会の母体となる満洲青年聯盟を生み出し、満洲事変、満洲国建国へ向う世論喚起に大きな影響を及ぼすことになった。在満日本人の民論誘導の面において、『大連新聞』が満洲事変で果たした役割は、同時代の『満日』よりも決定的なものであったといえよう。従来、史料環境の不備もあり、『大連新聞』の存在意義と史料価値には十分な関心が払われてこなかった。この度、1932年初頭から終刊号までのデジタル化が実現されることになった。部分的とはいえ、満洲国建国前後の全盛期から、積年のライバル『満洲日報』に合併され電撃的廃刊に至る、当紙のいわば晩年の軌跡を確認できる貴重な記録である。民間紙『大連新聞』が辿った激動の変遷史には、満鉄機関紙『満日』だけでは捉えきれない両大戦間期満洲の様相を、より立体的・多層的に読み解くカギが隠されていると思えてならない。

上海日日新聞

昭和6年1月～12年4月

(除く 昭和6年9月～8年4月)

DVD版3枚……………定価¥180,000(本体)

マイクロ版40リール…定価¥800,000(本体)

稀少資料を読む楽しみ—「上海日日新聞」—

竹松良明 (大阪学院大学短期大学部 教授)

この度、丸善(株)から「上海日日新聞」が復刻されると聞いた時、一瞬の戸惑いを覚えたが、ほどなくして十分納得できた。現在東京大学の社会情報研究資料センターが所蔵する56ヶ月分は、1914年10月1日の創刊から未確認の終刊(1938年か)までの発行総量から見れば大分のものとは言えないが、しかし逆に眺めればそのような稀少性にこそこの度の復刻の意義が担保されている。上海図書館別館の徐家匯蔵書楼には上記の56ヶ月以外のものが多少蔵されているが、それとても到底全貌に迫る量ではない。戦前の〈外地〉についての諸分野からの関心が高まる現在、中でも上海に対する研究は加速される一方であり、確認できる限りでのこの新聞に対する需要は増すばかりである。宮地貫道という無名の硬骨漢が創始した「上海日日新聞」は、辛亥革命後の中国の政治・経済に深く通じたものとして1920年代までの上海の日本人居留民から高い支持を受けた模様だが、宮地の著書『支支国策論』(昭和7年)に見るような、満洲を日本の生命線とすることへの批判的見解が世に容れられず、宮地は断然筆を折って潔く次の事業に進んだと言われる。筆者が専攻する日本近代文学の領域だけから見ても、今回復刻される紙面には野村愛正・菊池曉汀・戸川貞雄・高須芳次郎・濱尾四郎・生田葵・寺島樞史・国枝史郎らの連載小説その他の記事が目にとまり、〈外地〉文学史の空隙を埋める得難い資料と思われる。

「東久邇宮稔彦(後の東久邇稔彦) 陸軍特別大演習 幕僚長閑院宮を訪問」(毎日新聞社提供)



MARUZEN-YUSHODO

丸善雄松堂株式会社

学術情報ソリューション事業部 開発部 〒160-0002 東京都新宿区四谷坂町10-10

Tel: 03-3357-1449 Fax: 03-4335-9419 Email: archives@maruzen.co.jp <http://myrp.maruzen.co.jp/>